

会報

第14号
2013. 8. 26
新潟大学
理学部同窓会



新潟大学理学部棟



地球深部の散歩道
(正面玄関前左)



世を繋ぐお手伝い



理学部同窓会会長 野本憲雄

熱中症が毎日大きなニュースになっていますが、理学部同窓会員の皆様にはいかがが過ぎでしょうか。日ごろ同窓会の運営にご理解ご協力を頂きありがとうございます。皆様のお力添えを頂きながら、三年間会長職を勤めさせて頂きました。引き続き勤めさせて頂くことになりました。微力ではありますが、力を尽くしたいと考えております。引き続きご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。漱石の小説で、坊ちゃんは、「三年間、まあ人並みには勉強したが、別段たちのいい方でもないから、席順はいつでも下から勘定する方が便利であった」と学生時代をふり返っています。しかし、坊ちゃんの出身校、東京物理学校(いまの東京理科大学の前身)は「入るは易く、出るは難し」で通っていた学校です。ある方が、坊ちゃんの入学は明治三五年と推測して、大学の記録を調べてみたところ、坊ちゃんと同期で入学した学生

は二〇三人だったそうです。ところが、三年後の明治三八年に坊ちゃんと一緒に、卒業した人は、わずか二五人だったそうです。この中には、坊ちゃんよりも前の入学者もいた筈ですから、吃驚してしまいます。いまの大学なら、きっと大ニュースになり、大学の先生は厳しく責任を問われることになりかねないだろうと思います。ところで、この東京物理学校は、明治一二年前後にいまの東京大学の理学部物理学科を卒業した二人の人のたちが創った学校だそうです。彼らは、自分たちがいまあるのは、税金を使わせて貰って教育を受けさせて貰ったお蔭だと感謝し、その「恩」に報いようと、学校を立ち上げたのだそうです。立ち上げに当たっては、高額な寄付金を出し合い、その後も月々寄付をし続け、さらに日々の仕事を終わった後、無給で教育に当たったという事です。この話については、司馬遼太郎さんがかつて

文藝春秋に「文明の配電盤」として書いておられます。「風塵抄」にもあります) 当時の日本は、近代国家たらんと必死に頑張っていた頃で、国費を投じて教育に力を入れていた頃です。「報恩」などという言葉はいまや「死語」になりかけ、また、利潤追求を目指す競争原理が教育研究の場でさえも云々されているいまの世にある私たちに、感銘はしながらも、何か別世界の出来事のようにさえ感じられてしまいます。しかし、人を育て、次の世に繋いでいくことは、世の中がどうであろうと、いつでも大切なことだと思います。当時のような気宇壮大さはとても持てそうにはありませんが、その代わり数があります。八千人を超える同窓の方々が少しずつ協力すれば、とても大きな力になり得ると思います。このところ、同窓会に寄付を寄せて下さる会員の方が増えているそうです。うれしいことです。会員の方々がこの気持ちをもますます強くして、将来の世を担う若い学生さんたちの力になれば素晴らしいなあなどと思っております。



世代交代と ミッション再定義



理学部長
工藤 久昭

日頃より、理学部同窓会のみならずには多大なご支援を頂きまして、感謝申し上げます。特に今年度は、十月に理学部にて開催される「姉妹校による第三回自然科学に関する国際会議」へのご支援を頂

きましてありがとうございます。昨年台湾で開催された第二回会議では、理学系からの学生・院生の参加者が三十一名と参加大学の中で最大規模でした。今年度は地元開催ということもあり、さらに多くの学生・院生が参加することが予想され、グローバル教育に大いに資することになるものと考えております。

現在、理学部の教員数は合計九十二名ですが、昨年度と今年度の二年間で大幅な移動があり、退職・転出された先生は十五名で、新しく赴任してこられた先生は二十人に及びます。理学部における大きな世代交代といっても良いかと思えます。新しく来られた先生の中には、最近とみに重

要な教育内容となっている「学生のキャリアパスを明確にする教育」や「グローバル化に対応した教育」を担当する実践型教育部門（大学院）の宮下孝洋教授も含まれています。今年度から三年間という期限付きですが、理学系学生・院生に対して、「企業インターンシップ」の受け入れ先企業の開発やインターンシップの斡旋等をはじめとして就職関連でご尽力いただけることになっております。

大学をとりまく現状はますます厳しくなっております。文部科学省からの運営費交付金の減額に加え、電気料値上げ等による教育研究費の逼迫により、大学の財政を抜本的に見直す必要に迫られております。このような中、前号でも少し紹介いたしました、ミッションの再定義が行われます。これまでの取組実績をエビデンスとして、育成する人材像、教育改革の方向性、研究推進の方向性、社会への貢献の観点を中心に、各大学のそれぞれの分野がどのような強みや特色を持ち、社会的な役割を担っているかを明らかにし、将来の方向性を社会に示すこととなります。この新しいミッションをもとに、

各大学は、学内資源配分の最

適化に取り組むとともに、今後産業界との対話を通じて策定される「理工系人材育成戦略」（仮称）を踏まえ、教育研究組織の再編成や整備を進めます。それより、「世界水準の教育研究の展開拠点」、「全国的な教育研究拠点」、「地域活性化の中核的拠点」などの機能の強化を図ることになります。文部科学省は、この過程において、大学の枠を越えた連携や機能強化を含む先駆的な改革を進める国立大学に対して予算の重点的配分をすることにしております。また、各専門分野の振興の観点や具体的な改革工程を盛り込んだ「国立大学改革プラン」（仮称）を、本年夏をめどに策定するとしています。さらには、教育や研究活動等の成果を踏まえた新たな評価指標を確立するとともに、第三期中期目標期間（平成二十八年度以降）は、国立大学法人運営費交付金の在り方を抜本的に見直すこととしています。

このような情勢の下、理学部のミッションの再定義は、八月に基礎となる資料を提出し文部科学省と意見交換した後、今年度末には個票が確定され、公開されることとなります。

2013 オープンキャンパス 全体会風景



理学部後援会より



後援会会長
山田 貴子

理学部同窓会会員の皆様方におかれましては、お健やかにお過ごしのことと存じます。

理学部では平成十四年度から始まりました理学部コロキウムが今年も開催されております。各専門の先生方からの研究成果のお話を聞くことは、これからの研究活動をしていく上で大いに役立つことでしょう。また、就職に関しても就業体験をする、社会経



2013 オープンキャンパス
理学部玄関

験を積むというキャリア教育に取り組んで頂いていることで最終的には一〇〇%近くになるとお聞きします。これも先生方をはじめ職員の皆様のご指導のおかげと感謝致します。このような様々な取り組みに積極的に参加し、活用することで学生生活そして就職活動に生かして頂きたいと思っております。後援会といたしましては、学生の更なる飛躍を願い、応援していきたいと思っております。

理学部同窓会と会員の皆様方のますますの発展をお祈りするとともに、後援会活動の充実に努めてまいります。今後ともご支援よろしくお願い致します。

全学同窓会からの お知らせ

◆全学同窓会事務局の移転

全学同窓会をはじめ、地域や企業など大学の応援団（サポーター）との連携を深めるため、平成二十五年四月一日より「新大サポーター連携推進室」が設置されました。これに伴って、全学同窓会事務局もサポーター連携推進室と同居することになりました。同居したことで、全学同窓会事務局とサポーター連携推進室の協力も深まっており、両者の連携した取組も始まっており、部屋は大学本部庁舎の正面を入って右手にあります。部屋はとて入りやすい雰囲気になっていきますので、同窓生の皆様も来学された際は、是非お立ち寄りください。

◆雪華支援事業について

「新潟大学の発展と社会への貢献に資する」という新潟大学全学同窓会の運営理念に合致する事業を支援するため、二〇〇八年度から公募型の雪華支援事業（一件あたり五十万円以下の助成）を実施しています。これまで、二〇〇八年度三件、二〇〇九年度七件、二〇一〇年度十件、二〇一一年度十四件、二〇一二年度は

十三件の事業を支援してまいりました。二〇一二年度（公募中）は総額三五〇万円を助成いたします。助成する団体には十月二十六日開催の新潟大学・新潟大学全学同窓会交流会懇親会にて目録を贈呈し、指名された二・三の団体によるプレゼンテーションを行う予定です。なお、採択事業については広報紙「雪華」に掲載し、詳細はホームページに公開しております。

◆賛助会費納入のお願い

前述の「雪華支援事業」の予算は同窓生からの賛助会費を原資としております。採択された事業は、母校のブランド価値の向上、好感度アップにも貢献しています。応募件数は年々増加しておりますので、事業の拡大には賛助会費収入の増加が不可欠です。是非とも皆様のご協力をお願いいたします。

◆新潟大学カード(MUGGOールドカード)事業について

全学同窓会では入会金・年会費無料のゴールドカードを発行しています。会員増加によって、会員募集手数料と提携手数料の収入が増えますので、この機にご入会くださいますようお願い致します。くわしくは理学部同窓会事務局まで。

首都圏同窓会 と私

首都圏同窓会幹事 矢口たみ江

矢口たみ江

私はごく普通の主婦です。この会報誌にとりたてて書く様な事は何もないのでお断りしようかと思いましたが、首都圏同窓会に関っている卒業生の中には私の様な者もいる事を皆さんに知って欲しくてお引き受けしました。大学を卒業して三十七年、就職、結婚、出産、育児とごく普通の主婦の生活をしてきました。国立大学で学ばせてもらいながら、学んだ事を生かす事もなく、何も社会の役に立っていない事を申し訳なく思っています。

私も私も私は幼少の頃から絵を描く事が好きで、将来は画家かデザイナー関係の仕事に就こうと決めていました。

高校三年の時先生に勧められるままに、何の目的もなく新潟大学を受験しました。運良く？受かってしまい美大に進む道は途切れてしまいました。入学したものの自分の居場所に違和感があり、退学する事も考えましたが、すぐに友達も出来、美術部に入って絵を描く事も始め、程々に楽

しい大学生活を送る事となりました。劣等生でしたが、なんとか卒業した次第です。

結婚後十数年専業主婦として生活し、母校の事など忘れていた頃同窓会に誘われました。今さらこの年になつた私の様な仕事もしていないただの主婦がサイエンスセミナーなど理解できないと思いつながら参加してみました。

私には難しい内容でよく解りませんでしたが、少くだけ学生時代の気分を味わう事ができました。懇親会でも先輩方の話が聞けて、日常生活にはない刺激を受けました。それからはとにかく毎回参加してみようと思ひ、今年で二十回位になると思ひます。その間幹事としてお手伝いをした事が少しでも母校に恩返しできたのではないかと今では勝手に思っております。

最近好きな油絵に力を入れています。作品を出展したい



学科・ 支部だより

数学科

私が着任してから二十五年以上が経ちました。一学年三十五人なので約九〇〇人の学生を教えたことになります。全体として、まじめで行儀のよい気質は変わりませんが、多くの数学専門分野への関心を持つ学生が減ったような気がします。解析なら解析だけ、代数なら代数だけの勉強で満足する学生が増えました。一学科で、数学と情報の両方を学べるようにしたことの影響かもしれません。理由ははっきりしません。

二十五年間で、教員もずいぶんと入れ替わり、金子、渡部、田中、寺澤、浅野、関川の各先生が退職され、赤堀、兼田、渡辺（誠）、鈴木、明石、高田、秋山などの各先生が転出されました。

そして、この三月には、磯貝、泉池、吉原の各先生が定年退職されました。若かった私もあと数年で学科内の最年長者になってしまいます。これからの数年で数学科もさらに大きく変わっていくことでしょう。

ところで、卒業後に数学と接する機会がほとんどなくなった方も多いことでしょう。たまには大学時代に学んだ数学を思い出すことがあるでしょうか。せっかくの機会なので行列式を思い出してください。私が線形代数を教えるようになってから随分と経ちますが、行列式の導入法を今年度閃きましたのでご紹介いたします。学期の終わりに学生による授業評価アンケートを行うことになっていますが、こんな性質を持つ関数を数学者は作り出すのかと感心した学生もいました。

まず、二元連立方程式を解き、解の公式を作る。方程式の係数行列（二行二列の行列）の行列式を定義して、それを使って解の公式を記述し直す（クラメル公式）。二行二列の行列式が満たす性質を調べ挙げる。今度は具体的な定義式を忘れて、見つけ出した性質だけから連立方程式の解が二行二列の行列式で記述できることを示す。ここまでで、

n行n列の行列に対して、見つけ出した性質を満たす式を作り出すことができれば解の公式ができあがるという目標がはっきりします。実際に、要求した性質を使って計算していくと、行列式の定義式に辿り着き、目的が達成されます。つまり、最初に見たときに何これと思うあの行列式の定義式が得られます。必要は発明の母と言いますが、ある性質（必要条件）から行列式を作成するのはその例と考えられます。高校生相手のオープンキャンパスや出前講義で、三次の行列式に限ってこの導入法を試し、反応を見てみるつもりです。

数学の思考法が役立つこともうひとつの例があります。ストレス解消のためにナンプレをするのですが、背理法が非常に役に立ちます。昇目に入るのがaかbというところまでわかったら、aを入れて解答を続けてみる。矛盾が生じれば、その昇目にはbが入る。難問だと、背理法を入れ子で使うこともあります。私の数学の研究では、背理法を入れ子で使った経験がないので、まだまだ易しめの研究テーマを追いかけているということなのでしょいか。試してみてください。



2013 オープンキャンパス
数学科の模擬授業

数学科支部の近況

支部長 樋浦 卓嘉

平成二十五年度数学科支部の最大行事はなんといっても七月二十七日に開催された同窓会数学科支部が主催した泉池先生、磯貝先生、吉原先生ご退職記念祝賀会です。二十五年三月末に定年退職された数学科の三教授をお祝いする会を開催しようと昨年四月から実行委員会を立ち上げ準備してきました。準備段階では、会の形態はどのようにするか、会員への周知の仕方はどうしたらよいかなど難しい問題が沢山ありました。しかし、七回開催した実行委員会で鋭意検討し、事務局竹内先生の細かい配慮があつて、当日、七十五名の皆さんの参加を頂き、盛大に祝賀会を催すことができました。祝賀会は和やかな雰囲気の中、三先生への

祝意、謝意に満ち溢れ、さらには会員相互の交流の場となりました。盛会裏に終了することができました。準備に携われた皆様、当日出席された支部会員・特別会員、なによりご退職され、この会にご出席いただいた泉池先生、磯貝先生、吉原先生に厚くお礼申し上げます。なお、この会に先立って支部総会も開催し、予算、決算、活動方針など承認してもらいました。

物理学科

学科長 山田 裕

物理学科では昨年度末に後藤輝孝教授が定年退職されました。これまで物理学科を支えてこられました個性豊かな先生方も次々退官され、これで今年度谷本盛光教授が退職されますと、物理学科に六十代の教員はいなくなります。一方、新しく物性理論研究グループに金鋼准教授が、さらに物性実験根本グループに赤津光洋助教が着任しました。またそれに先立ち石川文洋助教も准教授に昇格しました。このように現在、新しく若い物理学科に様変わりしつつあります。なお別件ではありますが昨年東京大学に転任されました家富洋教授が今度は数学科の教員として新潟大学理学部に帰って来られたという



2013 オープンキャンパス
物理学科のポスター展示

サプライズもありました。

六月七日（金）には、恒例の物理学科祭「ケルビン祭」が開催されました。大学院進学のためのガイダンスの後、毎年名物になっていきます大学院生による研究室紹介が行われ、今年には原子核理論グループが最優秀プレゼンテーション賞に輝きました。また物理学科の第一期卒業生である中山高様からの寄付金を基にした「中山賞」も成績優秀な四年生三名に授与されました。その後授業改善に向けての教員との対話集会のあと、こちらも恒例になっていますパーベキュー大会が行われました。今年には午前中雨のため屋外での開催が危ぶまれましたが、午後には雨もやみ大盛況で親睦を図ることが出来ました。

今年も数年来行われてきた「高大連携講座」を行います

が、県内の幾つかの高校とのSSHによる連携も踏まえて講義及び実験を行うことになっていきます。今年で三年目になる「未来の科学者を育成する新潟プログラム」や「理数トップセミナー」も例年通り行われます。さらに八月八日九日でオープンキャンパスが行われ、物理学科では素粒子分野の模擬授業や超伝導の実験デモンストラなどが行われます。このように物理学科の多くの教員が科学を志す若い新しい芽を育てようといがなばつています。

七月から九月にかけて物理学科の教員が手分けをして県内外の高校を訪問し新潟大学理学部物理学科の魅力を広く宣伝に伺つてもおります。

このように物理学科は大きな転換期を迎え、社会のニーズにより対応した学科を目指すとともに、若者たちにより積極的に自然科学への興味と理解を深めてもらえるよう日々努力をしております。同窓会の皆様様のより一層のご支援をよろしくお願いいたします。

物理学科支部だより

支部長 坂井 章

丸山支部長の公務等の関係で支部役員の交代が今年度あ

りました。丸山支部長様には長い間、同窓会の業務に関わっていただき本当にありがとうございました。これからもご指導、ご支援をお願いいたします。

今年度は理学部同窓会(六月八日)に野本理学部同窓会長様を含めて物理学科支部として六名の参加でした。その席でも今後学生たちに少しでも益になることをとのことで、これから支部役員で相談して対応していく予定です。

現在私(坂井)が関わっている物理関係のことでは、日本物理教育学会です。新潟支部長は丸山氏です。また新理科教研(新しい理科教育を研究する会・会長は柿沼藤雄新潟工科大学教授)は毎月例会を開催しています。今後ともよろしく願います。

化学科

学科長 大鳥 範和

はじめに、教職員の異動についてご紹介いたします。二十五年三月末で徳江郁雄教授(物理化学)と堀米恒好教授(生化学)が定年退職しました。それに先立って一月に三浦智明助教(物理化学)が慶応大

学より、二月に大江一弘助教(核・放射化学)が日本原子力研究開発機構より、それぞ

れ着任しました。四月には保野善博教授(有機化学)が京都大学より着任し、古川和広准教授(生化学)が教授に昇任しました。また、昨年十二月に古川貢准教授(物理化学)が分子科学研究所より機器分析センターに着任し、化学科の教員と協同して教育研究にあたっています。さらにこの十月から迎える予定の生化学の准教授を加えると、今年度の化学科の陣容は教員十六名と職員二名の総勢十八名です。

学生は、三月に四年生三十八名が卒業し、うち二十三名が引き続き本学の大学院で学んでいます。四月には一年生三十八名と三年次編入生二名を新たに迎えました。すでに大学の授業様式にも慣れて小テスト・レポートなどの課題に勤しみ、初めての期末試験を控え、良い緊張感を湛えて授業に臨んでいるようです。恒例の親睦行事も、四月の新入生歓迎会とタテコ

ンを皮切りに、ビール祭りやソフトボール大会など例年同様の盛り上がりを見せ、学生間および学生と教職員間の交流に役立っています。

同窓会の皆様とも、この一年間に、ささやかですが新たにいくつかの交流を始めるこ

とができました。昨年十月の新大weekの際には、ホームカミングデーと称して本学科卒の高校教員の方を対象に交流会や施設見学会を催し、また今年の五月には卒業生の同窓会に合わせた施設見学を受けました。同窓生の皆様との交流がさらに発展していくよう、今後も種々の機会を活かし、小規模な交流でも一定の頻度で継続していきたいと思えます。

ところで、新入生懇談会で一年生に受験の動機を聞きますと、本学科の卒業生に勧められたという学生が毎年必ず数名はいます。また、兄弟姉妹が本学科で学んでいるという事例も多々あります。これもひとえに本学科の教育に対する皆様のご支持の賜物と、心から感謝する次第です。

すでに退職された先生方の教育に対する熱意と努力に敬意を払いつつ、在職する教職員一同、今後も不断の教育改善に努めて参る所存です。化学科同窓の皆様には、今後ともご支援のほど、何卒宜しくお願い申し上げます。

化学科支部だより

支部長 島野 弘通

理学部同窓会幹事会、理学部同窓会総会、全学同窓会交



2013 オープンキャンパス
化学科の体験実験



同窓会と理学部との懇談会

生物学科

学科長 西川 周一

まずは皆様に悲しいお知らせをせねばなりません。本学科元教授の大西耕二先生が二月に逝去されました。大西先生は二〇一〇年三月にご退職後も生物学科には時折お立ち寄りいただいております、お元気なお姿をお見かけしていただき、学科一同大変驚きました。ご葬儀の際には、多くの教職員と学生が、大学西門前で先生をお見送りしました。謹んで哀悼の意を表します。



2013 オープンキャンパス
生物学科の風景

所の実習船での達者湾へ尖閣湾見学、教員と先輩学生によるイブニングセミナー、翌日のトキの森公園見学といった盛りだくさんの内容でした。自由参加の研修でしたが新入生の半数以上が参加し、お互いの親睦を深めることができました。天気にも恵まれ、実り多い研修となりました。七月に行われた夏の懇親会にも多くの一年生が参加し、生物学科での生活にも徐々に慣れてきているようです。

学部教育でも、新たな試みが着実に進んでいます。特に数年前に始まった「生物学基礎演習」では、受講生の自主的な取り組みによって成果が徐々に出ています。「理学部の森」整備計画では、本年度は温室周りの歩道の整備に取り組んでいます。教材研究のグループは、開発した手作りの実験装置をもって「未来の科学者を育成する新潟プログラム」の「先取り！科学者の体験」講座における小中学生の体験学習に参加し、好評を得ました。人員の異動としては、長年にわたって学科事務を担当されていた池田恵美子さんがこの春に退職されました。後任には、菲澤香織さんが四月より勤務しております。

生物学科支部だより

支部長 荒木 勉

同窓生の皆さん、いかがお過ごしでしょうか。同窓生の多くの方々のご活躍を見聞きして喜んでおります。

さて、生物学科の停滞りは相変わらずで、全くもって申し訳なく感じております。毎回の幹事会等で他学科の活躍ぶりを目にして小さくなっております。

それでも、今年の代議員会までに新たに四名の方々から代議員をお引き受けいただき、新旧交代が叶いました。長年にわたって支部を支えて頂きました旧役員の方々には改めて感謝申し上げます。

近年、生物学科でも多くの先生方が交代しております。この機会に、昨年度の会報で、お知らせした講演会、懇親会を催したいと思っております。現在の生物学科の先生方やご活躍中の同窓生などにお願いで、秋口か年明けにはお知らせできるようにしたいと考えております。そして、学生諸君もお誘いして同窓会として懇親を深めたいと考えております。その折には、是非、多数の同窓生のご参加をお願いしたいと存じます。

地質科学科

学科長 松岡 篤

地質科学科では、新潟大学WEEKの理学部企画として、卒業生と在校生の集いを二〇〇八年から開催してきました。約一〇〇人の地質科学科学生、数十人の地球科学コースの大学院生および研究生からなる在校生と、社会の一端で活躍されている卒業生・修了生とが、十月の大学祭企画「地質まつり」の会場で一同に会し、交流を深めてきました。二〇一二年からはNPO法人ジオプロジェクト新潟の支援も得て、理学部同窓会と連絡を取りながら活動を進めています。この新潟大学WEEK企画には、「地質科学科の未来に向けて」という副題が付いています。多くの卒業生・修了生の皆さんには、大学までお越しいただき、在校生たちに先輩としてのアドバイスをいただければ幸いです。前日の夜には、大学院生主催の「秘酔」も開店します。

教職員の移動について報告します。二〇一三年三月には小西博己先生が教授として赴任されました。小西先生は、新潟大学の卒業生で、長らくアメリカで研究を続けてこられました。赤井純治先生は、三月末に停年退職されました。小西先生は赤井門下生なので、一ヶ月間だけ師弟がともに在職する状況が実現したことになります。二十一年間にわたり新潟大学に在職された志村俊昭先生も三月末に退職され、山口大学へ教授として栄転されました。赤井先生の退職をもって、四年で五人の教授が退職されるといって大量退職時代が終了しました。二〇一三年四月現在、地質科学科の教員は関連する大学院自然科学研究科の教員を合わせて九名です。このように、人数的には大変少ない現状の中で、教職員一丸となって教育研究活動に取り組んでいます。現在、複数の教員採用人事が進行中で、近いうちに陣容が固まります。フィールドに根ざした教育研究活動という学科の伝統を継承しながら、新たな方向性も見据えて、活気ある教室を築いていきたいと思っております。理学部同窓会には、今後ともご支援をよろしく願います。



2013 オープンキャンパス
地質科学科の紹介展示

地質科学科支部だより

支部長 田澤 純一

地質科学科の「在校生と卒業生の集い」が昨年十月二十一日、自然科学研究科物質生産棟一六一演習室で開催されました。大久保健(四十二回卒、総合地質コンサルタン(株))、五十嵐聡(三十一回卒、法政大学第二中・高等学校)、品田秋成(五十九回卒、(株)キタツク)の三名が職場紹介をしました。また、十二件のポスター発表がありました。

支部新年会が、一月十四日午後三時から市内関屋田町の「力鮎」で行われました。二十二名が出席し(最長老は島津先生、最年少は四十七回卒中澤健太)、楽しいひとときを過ごしました。ところで、皆さんは同期の集まりを持っておられますか? 十七回卒九名のうち六名は四月十一、十二日に南魚沼市の大沢山温泉で旧交を温めました。

(株)キタツク(中山輝也(八回卒)社長)の創業四十周年記念祝賀会が四月十五日にホテルイタリア軒で三八〇名の参加者のもと盛大に開かれました。同社にはこれまで二九名の地質鉱物学科・地質科学科の卒業生が雇用されています。

す。益々の発展を祈ります。

平成二十五年度理学部同窓会総会(六月八日)で支部役員が改選されました。支部長(田澤純一)、副支部長(佐藤成昭、高野正樹)、幹事長(田村伸夫)、副幹事長(豊島剛志、関谷一義、平井明夫)、幹事(小西博巳、佐藤壽則、関根正道、神保 啓、中澤健太、落合 厚、米倉直志、市橋弥生、豊島剛志)、監事(佐々木正、馬場幹雄)で、任期は平成二十八年五月までです。

自然環境科学科

学科長 高橋 正道

この春、自然環境科学科は、学科創設二十周年になりました。四月には、活気にあふれた三十一名の新生を迎えました。新生の出身県は、県内出身者が十名、県外が二十一名です。

新生は、新歓などの学科の各行事を通じて、次第に学生生活になじんできているように見えます。五月十一日には、「海辺の森キャンプ場」で、新生が七つの班に分かれて、班ごとに、ハンゴウ飯炊とオリジナルな献立をもとに、薪を燃やし、煙にむせびながら、料理を作りました。なかには、一流ホテルのシェフ顔負けの料理を作った班も

あれば、ハンゴウの火が強すぎて、かなり焦げてしまったご飯をスプーンで掻きとりながら食べた班もあったようです。あいにくの雨の中でしたが、エネルギーな新生の個性があふれていたオリエーションとなりました。

二、三年生は、学科の中心的存在となっています。順調に、講義や実験をこなしている学生もいますし、中には、少し、黄色信号がついてきたような学生がいるのも事実です。それぞれの学生が、この一年で、なんとか、さらに前進し、低空飛行気味の学生には、なんとか、挽回していただきたいと思っています。佐藤翼さん(三年)は、今年の九月から約半年の間、大学間交流協定でカナダのニューブランズウィック大学に留学しています。四年生は、大学院への進学や就職活動が本格化し、さらに必須化された課題研究に取り組んでいます。七月六日には、学科同窓会「創環会」の企画で、公務員として働いている卒業生に、就職にあたっての心構えや実際の仕事の様子などについて、学科の在校生が話を聞く講演会が開催されました。生の現場での仕事の具体的な話など、大変有意義な企画となりました。

た。

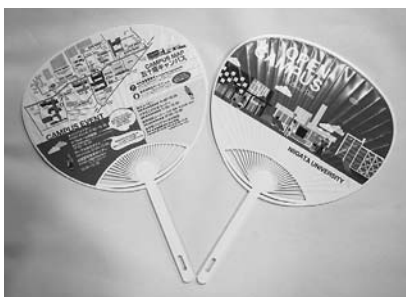
四月からは、物質循環科学分野の准教授に則末和宏(のりすえかずひろ)さん(分析・海洋科学)が着任しました。関西弁が得意な則末さんは、海洋における微量元素などの分析化学的研究をしています。また、九月からは、環境生物学分野の准教授に藤村衡至(ふじむらこうじ)さん(進化発生学)が着任しました。質実剛健な藤村さんは、アフリカに住む魚を材料に、顎の発生学的な研究を進めています。新しい人を迎えて、自然環境科学科の教育・研究がより充実し、活発になることが期待されます。

自然環境科学科支部だより

支部長 尾原 祥弘

これまで自然環境科学科同窓会では総会と懇親会の開催、後援支援事業の二つを柱に活動をしてきました。今年度の総会と懇親会は十月十三日(日)に新潟大学を会場として行う予定です。ここ数年は毎年講演会などを企画していますが、今年はスポーツ大会を実施することにしました。このような企画は、会員同士の交流をもっと増やしたいという思いから続けていますが、加えて昨年からFacebookや

Twitter等を利用した情報発信の試みも始めました。このような試みが同窓会の活動が盛り上がるきっかけになれば会員同士はもちろんのことが在学生との交流も増えると思っています。次に、後援支援事業ですが、今年すでに七月六日(土)に学生の就職活動支援として公務員講演会を行っています。講師は自然環境科学科OBの県職員三名にお願いしました。当日は、講師からそれぞれの職場の紹介、近年の試験対策など様々な内容の話があり、学生からは積極的に質問や意見が出て、大変有意義な講演会となりました。今後も、学生の声を聞きながら、卒業生を講師とした講演会等の交配支援活動を行いたいと思います。最後になりましたが、今後とも同窓会の活動にご理解とご協力をよろしく願います。

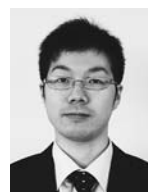


2013 オープンキャンパス 「うちわ」

若手卒業生から

数学科 「今やらねば」

数学科五十七回卒 遠田 良崇



は、わたしは大学院を出て、現在は新発田中央高校で教員をしています。大学院を出た同期の仲間の中では唯一の、私立の教員です。正直なところ、教員採用試験を落ちていただけに、教員になった同期に対して劣等感を感じることはありませんでした。しかし、日々生徒と向き合うことで教師として『やることをやらねば。なにをくだらないことを考えていたのだろう。』と自分自身の考えが変わるようになってきました。教壇に立てば誰もが同じ立場にあるのです。

また生徒に対しても同じように言えることがあります。本校は公立高校を落ちてくる生徒が少なからずいるので、自分に自信を持ってない子たちが多いように思えます。そんな生徒たちには、『高校生としてやるべきことは誰しもが同じである。やるべきことは今やる。』と声を掛け、気持ちを前向きにしてあげるよ

うに心がけています。

私もそのような生徒の中から、一人でも多く新潟大学への進学者を出せるように日々精進していきたいと思っています。新潟大学の先生方や同窓生の皆様方にもお世話になると思いますので、今後ともよろしくお願い致します。

物理学科 「ヘリウムを汲む生活」

物理学科五十六回卒 榮永 茉莉

新潟大学で九年間の学生生活を過ごし、今年度からは大阪大学で特任研究員として勤務しています。私は物質に圧力をかけて起こる超伝導や構造相転移を研究しており、主に低温高圧下の実験を行っています。絶対零度に近い極低温の実現に欠かせないのは、沸点がマイナス二六九℃と全元素中で一番低いヘリウムです。ヘリウムを生産できるのは世界五ヶ国の天然ガス田に限られ、日本は輸入に頼っています。近年ではアジア地域



研究室の学生Yanun君とヘリウムの汲み出し中(本人右)

の需要が増加し、またシエールガス開発による減産が進むと考えられます。二〇一一年には油田プラントでのトラブルで供給ストップが起り、ドイツ・ポーランドなどでバルーンの販売が停止しました。このように、需要と供給のバランスにより度々ヘリウムの使用制限が起ります。そのため、大学などのいくつかの研究機関では、使用済ヘリウムを回収し、再度液化する装置を運用しています。新潟大学と同様に大阪大学もヘリウム液化機を有し、各研究室が比較的安価に液体ヘリウムを利用できます。

化学科

化学科五十五回卒 中田 克

私は、新潟大学での博士課程終了後、一年間のポスドクを経て、現在は滋賀県で三年目の社会人生活を送っています。会社では、X線回折や中性子散乱法を用いて、主に高分子材料の構造分析を行っています。

大学の研究室やポスドク時代

代には、X線や中性子散乱を用いて、水溶液の構造・ダイナミクス解析を行っていました。学生・ポスドク時代に学んだ手法を活用できる職場で働けることに大きな喜びとやりがいを感じています。一方で、対象が「低分子の液体」から「高分子の固体」に変化したことで、これまでの知識や経験が通用しないことも多く未だ苦労が耐えませんが、新しい分野での経験はとても刺激的で充実した日々を送っています。

学会や放射光・中性子実験では新しい方との交流も多いですが、学生時代から交流のあった方たちと顔を合わす機会も多く、新潟大学で過ごした期間の大切さを実感しています。

プライベートでは昨年に娘も生まれ、早一年経とうとし



娘(11ヶ月)と

ています。仕事にかまけてしまいがちですが、家庭と仕事の両立を目指して日々精進しています。

生物学科 生物学科五十七回卒

生物学科五十七回卒 嶋川 礼

大学院を修了し二年の月日が流れました。今はまだ、学生時代を振り返ると楽しく、そして、悔しい思いをした経験が鮮やかに思い出されます。これらすべてが今の私を構成し、支えているのだと誇りに思っています。

現在私が大切に行っている経験は修士論文の研究経験です。この研究で、私の手元に残されたものは数え切れないぐらい多くの『失敗』という経験でした。私にとって『失敗』は苦しいものではありませんでした。しかし、一番苦しかった事は、私だけが結果が異なること、実験の『失敗』が初期に解ったとしても『失敗』であることを証明するために最後まで向き合わねばならないことでした。それはとても苦しい経験でありました。しかし、どんな理由があろうと進んでいかなければならず、そして必死で進んでまいりました。

現在は職に就き、ここでも

多くの『失敗』を経験していただきます。そのたびに、過去の経験が私の背中を押してくれています。『失敗』の先を目指して。

地質科

地質科 末武 杏奈
私が今働いている会社は、APPECやCOP10などの国際会議や、医学会の運営・企画を行っているところで、大学院では、研究成果を国際学会で発表する機会に恵まれ、国を超えた情報共有や世界中の学者達との交流に感動したのを今でも忘れません。そしてこのような学会の運営を支えているこの業界へ入社を決め、希望通りの仕事をしています。学会での参加者数は数一〇〇人から一万人



会長の医師とのツーショット (本人左)

と様々で、企画から現場運営までを二年から数年かけて行うためやりがいも大いにあります。実際、研究職とは程遠い業界に入社した為、周囲の人からよく入社した動機を聞かれます。しかし、理系だからと言って人生の道を狭めず、逆の発想でそれを長所とし、自分にしかできないことをやるのが強みだと私は考えます。地質科で培ったチャレンジ精神を基に、私は今まで会社に取り入れられたことのない「宇宙医療」などの新しい分野も業務範囲にしてもらえるよう少しずつですが上部へ働きかけています。忍耐力や体力、チャレンジ力を身に付けることのできた地質科に心から感謝いたします。

自然環境科

もちろんです！

自然環境科 池田 裕一
「自然が好きだから」その理由だけで選んだ仕事は、パークレンジャー。戦隊モノのヒーローではありません。公園の管理運営を行なう仕事です。上越市の「潟」に広がる公園をフィールドに、自然観察会の企画運営、動植物モニタリングなどを行い、自然を満喫する日々を過ごしました。

栽培したきのこ(えのきたけ)を収穫



そのような中、余暇として楽しむ公園の自然だけではなく、産業として森林に関わっていく「林業」に興味を持つようになりました。

そして、県の職員(職種:林業)へと転職しました。新潟県内で林業に関する様々な業務を行います。現在二年目です。担当業務は「特用林産物」という分野。具体的には、試験研究機関に配属になり、きのこの品種開発等を行っています。当学科の特徴は、縦の繋がりが強いと思います。先輩・後輩・同期、色々な刺激や学びがとても貴重でした。私の礎となっています。同窓会等に皆さんに会えるのを楽しみに、これからも頑張っています。

平成25年6月現在

拠出者御芳名(敬称略)

理学部同窓会整備・振興寄付金

●数学科

手代木 健
戸井田 正信
長谷川 基和
野尻 和子
家井 園
神戸 平次
目黒 俊雄
伊藤 道一
山岸 眞
阿部 千鶴
熊野 久雄
岩田 隆子
堀 行
吉岡 智晃
吉川 益男
小田 武夫
小嶽 稔
菊池 重治
上野 正勝
宮坂 幸雄
樋浦 卓嘉
宮崎 紘幸

中村 親樹
尾寺 芳樹
田松 秀夫
田吉 輝雄
井上 昭導
金子 正義
遠山 庄二
高橋 健樹
永井 代造
矢野 恒雄
岩田 博和
本家 武子
小林 祥一郎
井村 悦子
梅原 雄一
石田 雅義
竹内 照雄
湧田 和宏
田中 孝喜
福田 世喜

吉成 大根
根田 佐藤
佐藤 植熊
管内 管野
鈴木 竹内
青木 鈴木
浅野 三浦
桑原 吉田
高木 高木
藤本 美枝
中田 厚志
安田 浩幸
藤高 信夫
白石 勝雅
星野 斎芳

毅 昭政
文政 由紀
昭夫 吉文
士夫 正文
紀夫 正信
夫雄 孝史
雄一 学
輝雄 正司
昭導 弘秀
正義 裕史
二庄 稔
樹代 子
恒雄 和
博和 武
一郎 祥
悦子 雄
雅義 一
照雄 和
宏 孝
世喜 喜

成根 大根
田佐 植熊
管内 管野
鈴木 竹内
青木 鈴木
浅野 三浦
桑原 吉田
高木 高木
藤本 美枝
中田 厚志
安田 浩幸
藤高 信夫
白石 勝雅
星野 斎芳

石塚 西村
西川 加藤
川部 五十
五十 馬場
馬場 牛丸
北川 山口
山口 玉田
武田 齋藤
大坂 山手
手野 関野
野々 山手
大竹

正彦 浩子
浩達 芳浩
達美 直樹
浩美 宏博
直樹 智也
宏博 毅
毅 平樹
平樹 好子
好子 文瀨
文瀨 裕
裕 朗希
朗希 昌

●物理学科

高橋 輝雄
和野 左苗
矢野 欽也
犬飼 久夫
森山 修
小林 純一
佐藤 庄平
野間 隆司
関川 美和
小島 俊周
熊谷 有正
市山 吉田
吉田 土田
柳 畑野
関 井
寺 洪
尾崎 林

雄苗 欽也
久夫 修
純一 庄平
隆司 美和
俊周 有正
吉田 土田
畑野 井
洪 尾崎

明比 範夫
崎功 憲
野本 憲
原藤 紘
藤山 喜隆
前伊 繁夫
田寺 直昭
中田 清隆
川渡 俊英
渡辺 孝一
井藤 博
井渡 寛
内渡 信夫
木下 正博
村見 敏昭
田関 隆夫

霜鳥 達夫
小林 美紀
水本 信夫
阿部 星一
廣田 俊彰
上林 秀光
福本 一男
高見 英治
野村 康晋
時武 一雄
佐藤 洋二
茂野 俊男
水谷 明彦
石川 敏幸
白鳥 雅之
倉馬 藤司
有藤 内藤
斎藤 斎藤

工藤 幸人
西沢 茂政
武田 政武
岡田 清一
久保 康智
大久保 健一郎
荒井 清彦
小島 昌基
黒沢 高嗣
山田 孝之
平井 祥之
須田 大規
二戸 宏平
越後 奥野
加藤 山本
野谷 石田
石田 谷
佐藤 高橋
美樹

須村 享誠
井村 佐藤
佐藤 柳
嘉代子

●化学科

永井 幸子	村松 彰夫	赤沢 宏	小林 和雄	浅井 恒雄	井戸 清治	斎藤 博之	佐藤 高大
鈴木 俊雄	村川 忠司	小島 光恵	石川 勝司	星野 洋子	山岸 良一	横田かおり	渡辺 勲
井上 幸子	遠藤 了	大関久美子	山本 正	遠藤ひろみ	孫田 淳	横田 高明	熊澤 寿和
伊藤 良夫	永井 清	青木 英二	間 和彦	渋谷 豊子	高橋 邦明	沼崎 恭子	小湊 友貴
土田 雅子	佐藤 茂司	吉川 義雄	中山 久雄	工藤 久昭	渡辺 俊治	重富 潤一	小林みどり
渡辺 初男	井古田仁司	関根 俊明	飛鳥 慈	崎村 建司	青柳 義昭	虎澤 昌弘	佐藤 徳仁
小林 公子	花見 英男	関根 玲子	中山三喜栄	生野 久人	藤纏 崇	金子 洋介	根岸 裕太
田巻 繁	関川富士夫	村松 信輔	渋谷 信雄	坂本 憲司	三上 正人	赤間 智也	佐藤 大輔
三屋 彰	後藤 邦男	矢田 悦子	早川 和良	東田 良和	橋本 雅文	小林 裕之	
藤沢 隆郎	半田 進	渋谷 貞雄	土屋真知子	山口 衛	菊池 優基	安田健一郎	
長尾 典	岡本 紀子	稲川信之助	松本 利雄	羽深 等	岩崎 匡臣	山田 幹	
小川 勝	石塚 紀夫	小笠原和人	椿 秀美	一柳 卓夫	松田 高至	水谷 奈奈	



別表 1

平成24年度 理学部同窓会決算

一般会計

	費 目	予算額(円)	決算額(円)	比 較	説 明
収入の部	終身会費・寄付金	4,500,000	5,216,000	716,000	終身会費194名*20,000円、正会員からの同窓会支援費等寄付金386名
	雑 収 入	9,261	6,476	-2,785	2,276 (預金利息) + 4,200 (名簿売上金)
	繰 越 金	960,739	960,739	0	
	合 計	5,470,000	6,183,215	713,215	

	費 目	予算額(円)	決算額(円)	比 較	説 明
支出の部	会 議 費	250,000	169,418	-80,582	諸会議交通費、会場費他
	広 報 費	300,000	659,175	359,175	理学部同窓会誌「会報14号」印刷代、理学部機関誌「理学部は今」費用他、HP運営費
	理学部支援事業費	600,000	300,000	-300,000	卒業祝賀会助成
	名簿編集費	20,000	0	-20,000	
	負担金等	455,000	453,000	-2,000	全学同窓会賦課金
	支部交付金	460,000	460,000	0	50,000*6 + 160,000 = 460,000
	支部事業補助費	400,000	190,000	-210,000	自然環境科学科、地質科学科へ助成
	事務費・通信費	200,000	86,391	-113,609	光熱水費、郵送料、払込手数料、印刷代、消耗品等
	事務局費	600,000	467,200	-132,800	人件費
	会員宛郵送費	800,000	689,098	-110,902	5590名(自然環境科除く) + 自然環境科37,280(466名)、郵送用封筒他資料印刷費
	人件費	200,000	192,000	-8,000	後援会パート手当
	予備費	185,000	0	-185,000	
	小 計	4,470,000	3,666,282	-803,718	
	積立準備金	1,000,000	1,500,000	500,000	特別会計へ繰り入れ
	計		5,166,282		
繰越金		1,016,933	1,016,933	現金(27,243) + 第四(281,758) + 郵便局(241,192) + 振替口座(466,740)	
合 計	5,470,000	6,183,215	713,215		

特別会計

	費 目	収入	支出	残 金	
特別会計	繰越金	10,000,000	0	10,000,000	H24.3.31まで 定期預金(利息は一般会計に組み入れ)
	H24年度積立金	1,500,000	0	1,500,000	定期預金(利息は一般会計に組み入れ)
	計	11,500,000	0	11,500,000	

●生物学科

南雲 照三 細谷 安彦 大西みち子 小池 英子
 武田 信昭 伊東 和江 松本 史郎 高橋直一郎
 平林 光雄 伊藤 正一 山本 雅子 猪熊 正則
 大森 康正 内田 善悟 小松伊都子 市川 克之
 名和 亨 本間 恒子 木本 鑑乗 吉田 定雄
 舟生 成一 長谷川 博 半田 秀雄 佐々木孝行
 高橋 宗昭 星野嘉恵子 川瀬 良子 権田 裕之
 古籾 恂 中村 勝典 磯部 浩伸 松本 真実
 横山 節哉 勝美 雪子 戸田 明 松崎 陽子
 小泉 節弥 田村 良三 古山 幸弘 小林めぐみ
 富所 利次 加藤 俊成 笹川 通博 重川 雅文
 仲川 一秋 正田 豊 伊藤 達朗 増田 真弓

●地質科学科

倉又 孝夫 田淵 章敬 大谷 正敬 滝本 俊明 兼子 高志
 奥村 義郎 吉田 滋 須田 公人 栃原真与子 橋本 瑛久
 大西 淳 中戸 義興 瀧澤 松雄 大河内 誠
 熊谷 忍 西片 武 笹川 一郎 志村 俊昭
 畑中 博文 佐藤 克彦 矢島 一昭 田中 力
 安井 茂則 塚田有一郎 中水 勝 佐藤 壽則
 佐々木邦夫 二瓶 文雄 天津 道孝 富加見昌孝
 山岸 俊男 佐々木 正 中川 充 渡部 直喜
 近藤 和久 篠原 芳秀 横堀 正純 関根 正道
 石橋 輝樹 佐藤 憲司 飯野 芳則 竹内 仁哉
 加藤 靖夫 山田 守 小山内康人 田利信二郎
 外山 正樹 平井 明夫 喜多 孝行 大河内春香

別表2

平成25年度 理学部同窓会予算

一般会計

	費 目	予算額 (円)	前年度予算額	増 減	説 明
収入の部	終身会費・寄付金	5,000,000	4,500,000	500,000	終身会費200名*20,000円、正会員からの同窓会支援費等寄付金1,000,000円
	繰越金	13,067	9,261	3,806	利子、その他
	雑収入	1,016,933	960,739	56,194	現金(27,243) + 第四(281,758) + 郵便局(241,192) + 振替口座(466,740)
	合計	6,030,000	5,470,000	560,000	

	費 目	予算額 (円)	前年度予算額	増 減	説 明
支出の部	会議費	200,000	250,000	-50,000	諸会議交通費、会場費他
	広報費	700,000	300,000	400,000	理学部同窓会誌「会報14号」印刷代、理学部機関誌「理学部は今」費用他、HP運営費
	理学部支援事業費	1,000,000	600,000	400,000	理学部からの要請による支援事業、卒業祝賀会費補助
	名簿編集費	20,000	20,000	0	
	負担金等	455,000	455,000	0	全学同窓会賦課金
	支部交付金	460,000	460,000	0	50,000*6 + 160,000
	支部事業補助費	400,000	400,000	0	
	事務費・通信費	200,000	200,000	0	光熱水費、郵送料、払込手数料、印刷代、消耗品等
	事務局費	500,000	600,000	-100,000	事務局人件費
	会員宛郵送費	800,000	800,000	0	会員宛会報などの送料他
	人件費	200,000	200,000	0	後援会パート手当
	予備費	95,000	185,000	-90,000	
	小計	5,030,000	4,470,000	560,000	
	積立金準備金	1,000,000	1,000,000	0	特別会計へ繰り入れ
合計	6,030,000	5,470,000	560,000		

特別会計

	費 目	収入	支出	残 金	
特別会計	H24年度までの繰越金	11,500,000	0	11,500,000	定期預金(利息は一般会計に組み入れ)
	H25年度積立金	1,000,000	0	1,000,000	定期預金(利息は一般会計に組み入れ)
	計	12,500,000	0	12,500,000	

事務局より

一、同窓会「総会」開催

平成二十五年六月八日(土)チサンホテル新潟において理学部同窓会総会が開催された。

☆議事

(一)平成二十四年度事業報告

(二)平成二十四年度決算報告

(三)平成二十四年度会計監査報告

・事業報告及び決算報告、会計監査は報告のとおり承認された。

(四)平成二十五年度事業計画(案)、平成二十五年度予算(案)

(五)会則の改定について

・提案のとおり承認された
 代議員定数の変更について
 会則を改定し定数をほぼ六十名とする。
 ・全会一致で承認された。

☆理学部との懇談会

代議員会終了後、理学部長、副学部長、各学科長のご臨席のもと懇談会が開催された。

二、広報活動

・正会員に会報十三号はじめ雪華などの広報紙を送付した。

三、理学部からの要請にもとづく各種支援
 ・理学部卒業祝賀会の経費を補助した

四、全学同窓会との連携について

・賦課金・分担金を応分負担し、財政的に貢献した。
 ・理事会、運営委員会に参加し、運営に貢献した。

五、会費及び寄付金について

・後援会と連携し、平成二十四年度新入生より会費を徴収した。
 ・財政力強化のため寄付金のお願により、多くのご寄付を頂いた。



理学部同窓会 総会風景

六、その他

(一)平成二十四年度決算報告書・平成二十五年度予算書(別表一、二)
 (二)会報について
 ・会報十四号は化学科支部が発行を担当、
 ・会報十五号は物理学科支部が担当の予定。
 (三)会員名簿について
 ・住所他の変更がありましたら事務局へ情報をお知らせください。

退職された教職員

(平成二十五年三月)

数学科

泉池 敬司(教授)

在職期間：平成五年四月から平成二十五年三月(二十年)

専門分野：複素解析学、実解析学、関数解析学

磯貝 英一(教授)

在職期間：昭和五十一年四月から平成二十五年三月(三十七年)

専門分野：統計学

吉原 久夫(教授)

在職期間：昭和五十四年十月から平成二十五年三月(三十四年)

専門分野：代数幾何学

物理学科

後藤 輝孝(教授)

在職期間：平成八年四月から平成二十五年三月(十七年)

化学科

徳江 郁夫(教授)

在職期間：昭和五十年十一月から平成二十五年三月(三十八年)

地質科学科

堀米 恒好(教授)

在職期間：昭和五十三年七月から平成二十五年三月(三十五年)

専門分野：生化学

地質科学科

赤井 純治(教授)

在職期間：昭和五十年十一月から平成二十五年三月(三十八年)

自然環境科学科

卯田 強(講師)

在職期間：昭和五十五年三月から平成二十五年三月(三十二年)

専門分野：構造地質学

転任された教職員

(平成二十五年三月)

地質科学科

志村 俊昭(准教授)

在職期間：平成四年四月から平成二十五年三月(二十一年)

専門分野：地質学、岩石学
 転任先：山口大学

亡くなられた先生

大西 耕二

(元生物学科教授)
 平成二十五年二月二十二日(享年七十歳)



編集後記

今号の編集は化学科支部が担当でしたが、その大方は事務局の尽力によるところであり、編集後記を書くこととはばかられるほどのす。
 お忙しい中、原稿をお寄せいただきました皆様、誠にありがとうございました。

新潟大学理学部同窓会(事務局)
 住所 千九〇―二一八

新潟大学理学部内
 新潟市西区五十嵐二の町八〇五〇

TEL 〇二五―二六二六―二六一
 FAX 〇二五―二六二六―二六一

E-mail ridoso@adsci.nigata-u.ac.jp
 URL http://www.ridoso.jp/

